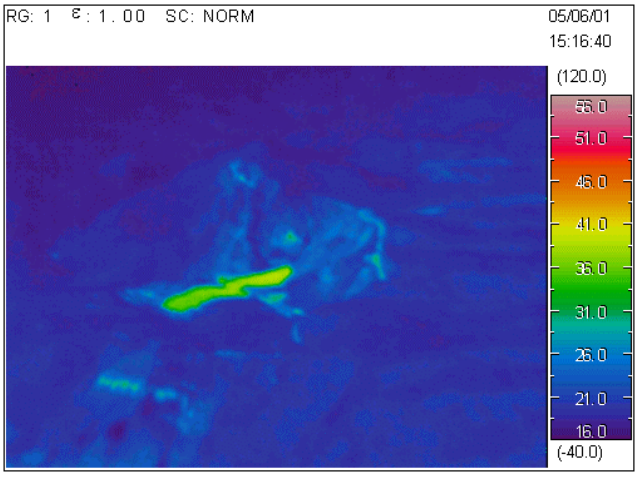
倶多楽

1　概況

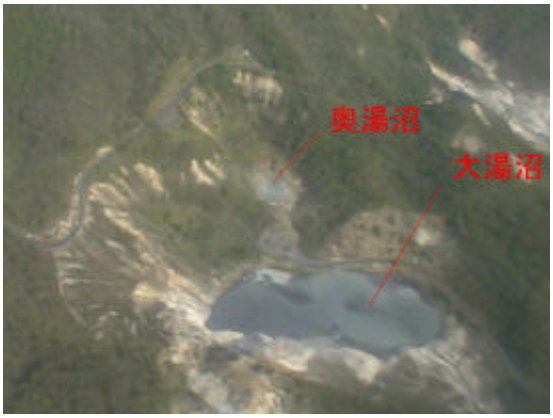
上空からの観測では、日和山や地獄谷で噴気活動が認められ、大湯沼では湯溜まりの状態が続いていました。新たな地熱域などは認められませんでした。

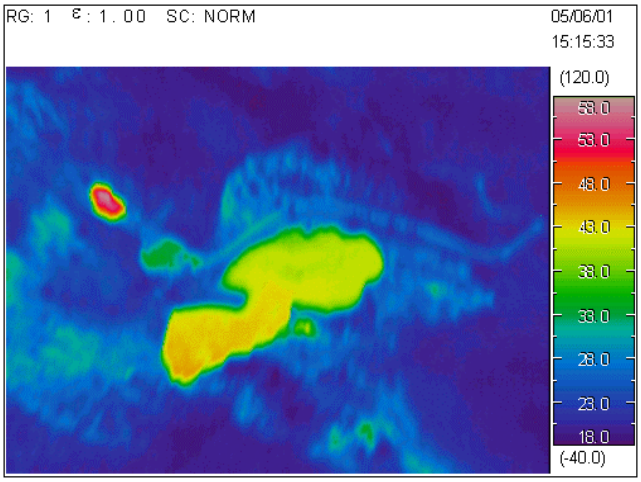
2　上空からの観測結果

６月１日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、日和山では活発な噴気活動が続いており、大湯沼と奥湯沼は全面湯溜まりの状態が続いていました。地獄谷では弱い噴気活動が続いていました。また、赤外熱映像装置*による観測では、2004 年５月の観測と比べて新たな地熱域は認められませんでした。

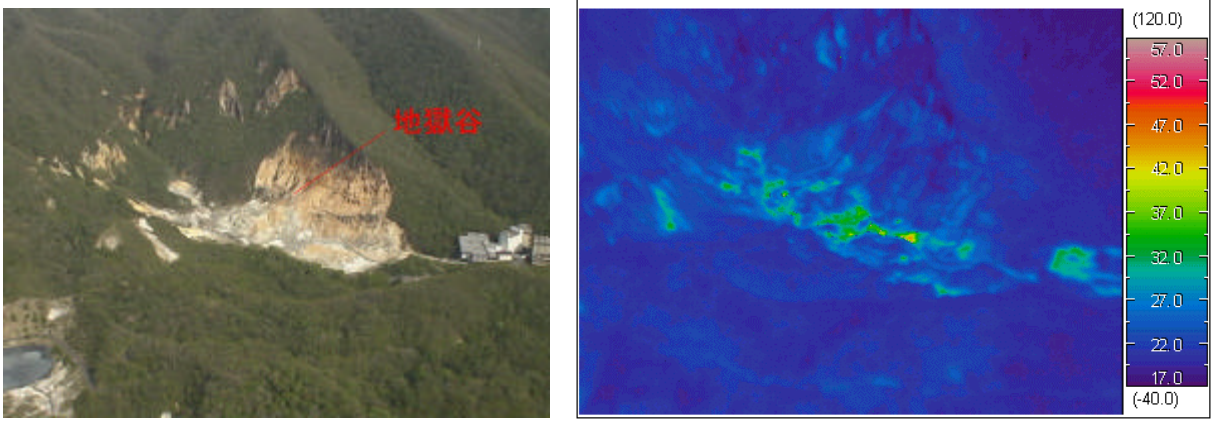


南東側上空から測定した日和山および大湯沼の表面温度分布





北西側上空から測定した大湯沼および奥湯沼の表面温度分布



北西側上空から測定した地獄谷の表面温度分布

＊赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

参　考

１万年前以降の活動は倶多楽火山の西麓が中心であり、大湯沼と地獄谷の２つの爆裂火口が開き、大湯沼の北西側に日和山溶岩ドームが噴出しました。最近１万年前には、８回の水蒸気爆発による堆積物が確認されています。最新の水蒸気爆発は地獄谷火口で発生し、この活動による堆積物が 1663 年の有珠山噴火に伴う Us-b 火山灰を覆っていることから、約 200 年前の活動と推定されます。これ以前の噴火は約 1900 年前と推定されています＜日本活火山総覧（第３版）（気象庁編 2005）による＞。